世代別・職業別タウンミーティング(要約)

テーマ：農業振興について

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　平成２７年３月２７日（金曜日）

【市長】　皆さんこんにちは。今日は年度末のお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。松山市農業協同組合の森映一代表理事組合長、そしてえひめ中央農業協同組合の菅野幸雄代表理事理事長には、心から感謝申し上げたいと思います。このタウンミーティングは、私が市長に就任をさせていただいてから始めさせていただきました。まずは地区別のタウンミーティングから始めました。松山は何地区あるのかというと、松山・北条・中島の全部を合わせて４１地区に分かれます。市役所職員は市役所で皆さんが来られるのを待っているほうが楽ですけれども、果たしてそれでいいんでしょうか。我々から４１地区に出向いて皆さんの声を聞かせてもらいましょう。そして各地区の課題は減らして魅力は伸ばすタウンミーティングをしましょうと始めさせていただきました。市長の任期は１期４年４８カ月ですから４８カ月で４１地区、１カ月に１回のペースで回らせていただいたらと思っていたんですけども、この松山市版のタウンミーティングは、聞きっぱなし、やりっぱなしにはしないタウンミーティングです。皆さんからのご意見に、できるだけこの場でお答えをして帰る。中には例えば国と関係をする案件、また県と関係をする案件、財政的な問題があるものもありますので、いい加減な返事をして帰るわけにはいきません。そういうものはいったん持ち帰らせていただいて、国に問い合わせる、国から返事が返ってくる、松山市としての方針をまとめて皆さんにお答えをする。また、同様に県に問い合わせて返事が返ってきて、松山市としての方針をまとめて出す。財政的な問題があるものは検討させていただいて必ず返事をする。１カ月を目処に必ず返事をするタウンミーティングをさせていただいています。おかげさまで好評になりまして、１巡目のタウンミーティングは２年２カ月で４１地区を全部回り終え、１期４年の中で二巡りさせていただきました。おかげさまで私は２期目に入らせていただいていますけれども、２期目のタウンミーティングは、これまでやってきた地区別のタウンミーティングもやっていきますけれども、職業別のタウンミーティングをさせていただこう。そして世代別のタウンミーティングもさせていただこう。１期目のときにやらせていただいたのですが、子育て世代の方々に集まっていただいてタウンミーティングをしたら非常に勉強になりました。また職業別では今日が１回目ですけれど、農業に関わる皆様方に集まっていただいて、松山市のやっている施策はこれでいいのか。もっと皆さんと意見交換をさせていただいて、こういうふうにしたら松山の農業はもっとよくなる。そういう意見交換ができたらと思います。まずは今日、職業別の第１回タウンミーティングでありますが、毎回申し上げているのは、タウンミーティングは９０分間やらせていただきますけれども、肩ひじ張っていると疲れてしまいます。あまり肩ひじ張らずにざっくばらんな意見交換ができればと思いますので、今日はどうぞよろしくお願いいたします。

【司会】　本日は農業について専門的知識をお持ちの皆様と議論を深める中で、これからの農業政策に生かせるよう勉強させていただきたいと考えています。それでは、意見交換を始める前に、松山市の農業について市長からご説明します。

【市長】　まずは松山市の農業に懸ける思いを２分ほどにまとめておりますので、お聞きいただいたらと思います。まず日本全体の話からいうと、皆さんご存知のように現在日本の農業をとりまく環境は、過疎化であったり、高齢化であったりと、担い手の減少が生産力の低下を招いています。農地は荒廃してしまう、耕作放棄地は増えてしまう。非常に厳しい状況と感じています。そもそも農業は大事であって、中山間地域や農業地帯で農業生産活動が行われて、市民の皆さんに食料やそのほかの農産物を安定して供給するという役割があります。また自然環境を守ってくれるという一面もあります。また、水の源を養ってくれる、すばらしい景色を守ってくれるというところもあります。そして文化を伝えてくれるという役割もあります。農業が持つ役割は非常に大きくて、松山にとっても将来にわたって不可欠な産業だと考えています。こうした中、担い手を育てること、確保すること、生産活動を総合的にサポートして生産者の所得向上につなげることで農家の経営の安定化を図り、持続可能な力強い農業を実現するため国や県とも歩調を合わせて、松山市の農業の実情に見合う策を展開していかなければと思っています。松山では近年、主要な柑橘である温州みかん・伊予柑の価格が低迷し、消費者ニーズが多様化する中、産地間の競争は激化している。柑橘農家の経営は非常に厳しい状況となっています。また今日、お話できればと思いますが、私はこれまでトップセールスによるまつやま農林水産物ブランドの販路の開拓、タウンミーティングでご意見もいただいた有害鳥獣対策の強化など重点的に取り組んできました。２期目の公約の中では、これらを継続していくことはもちろんのこと、転換品種としてアボカドとかライムの産地化を掲げ、農業振興を継続・強化していきたいと考えています。行政だけでできることは限られますので、生産者や生産者を支える皆様方とご相談をさせていただきながら、色んな策を展開していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【司会】　それでは、本日のテーマに沿っての意見交換に移ります。テーマ「担い手育成について・所得の向上に向けた取り組みについて」ご意見がある方は挙手をお願いします。

【男性】　松山市農協です。私は認定農業者また新規就農者に対する支援について意見を述べさせていただいたらと思います。松山市は色んな地域がありますけれども、色んな地域で農産物の生産が非常に盛んでございます。今、スライドにありますのが興居島の柑橘でございます。この方は青年就農給付金をもらわれて就農をしている方でございます。平坦地に行きますと白ねぎでございますが、愛媛県の中でも白ねぎの生産は松山市農協が一番でございまして、この方は認定農業者で販売促進も積極的にやられている方でございます。次、お願いします。向こう側にあるのは南第二中学校ですが、市内で麦の生産も非常に盛んでございます。南部生産組合といいまして、麦の生産法人でございますが、この方が組合長をされていまして、麦の生産も非常に最近増えてきているところでございます。こういったところで認定農業者を中心に生産を行っていますが、残念ながら非常に生産者が減っております。そういったところで今後とも認定農業者については今までどおりの手厚い支援をお願いしたらと考えております。国とか県も機械や施設等の整備についての補助もあるわけでございますが、今後も松山市にそういったことを十分手厚く支援をしていただいたらと考えております。あと、新規就農者の関係でございますけれども、今、国の青年就農給付金ということで１５０万円×５年という非常に大きな支援がありますので、これによって松山市内の新規就農者も増えております。約３０人と聞いているんですけど、この青年就農給付金は条件がございますので、自立経営であったり年齢制限というところで、もらえない方もいます。松山市内は非常に積極的にご活用いただいていまして、認定も非常に多いわけでございますが、認定にもれる方には松山市農協も独自に資金を渡しております。今年からの募集ですけれども、１年で２０万円×最長で５年という支援の資金を農協独自で構えまして、新規就農者に対して支援をするということで、条件等も非常にやさしくなっております。そういったことを農協もやっておりますので、ぜひ松山市もこういった支援についてご支援ができるようでしたら今後考えていただくこともお願いしたいと考えております。新しく始められる農業者の方がいないと松山市内の農業はこれから伸びていかないと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

【市長】　どうもありがとうございました。まず設立５０周年を記念して２千万円の給付総額ということで心から敬意を表したいと思います。これは具体的な案件になりますので、課長からお願いします。

【農林水産課長】　今、市長が申しましたが２千万円の基金、松山市農協さんのご英断に敬意を表します。心強い限りです。果樹や野菜に対して松山市は単独で補助事業を行っています。新規就農者や認定農業者とか担い手に対しては緩やかな制度にしていますので、極力ご活用いただけたらありがたいというのが１点。松山市農協の２千万円の基金は、青年就農給付金が国費事業ということで、割と条件が厳しいことに対して、緩やかに後継者をつくっていこうということなので、この２つの制度をうまく組み合わせながら、松山市としても宣伝等を務めながらできる限りの協力をさせていただきたいと思います。

【市長】　今日のキーワードじゃないかなと思うんですけれども、ＪＡ松山市さんとえひめ中央農協さんと、やっぱり松山市だけがやっていたら１になってしまうんですけれども１＋１が３になり４になり、例えば松山市がＰＲにちょっと一役買ってと言っていただいたら、例えば松山市のホームページを活用して農協さんではこういうのをされていますよという周知もできますので、色んなことで連携ができればと思いますので遠慮なく言っていただいたらと思います。私の思いですけれども、全国の市長の中では農業に理解のある市長ではないかなと思っています。実家が北条で田んぼや畑、今は１２年生まれの父と１６年生まれの母ですから今年７８歳と７４歳になりますので、さすがに手が回らなくてみかん山は手放していますけれども、畑やみかん畑があります。私も昔から農業体験がありますから、農業がどれだけ大事なものかは知っているつもりです。暑さを避けるために朝早くから仕事をするとか、だからといって早く寝られるわけではなくて夜には選別が残っていたりとか、こうやってオフィスで机がある椅子があるというわけではなくて冷暖房もない屋外で皆さん頑張って働いている。みかんも二度切りしないといけないんだよと小さいときに教えてもらっていますし、昔は稲木で干していましたから稲を持っていくときに首がどれだけかゆかったかというのを覚えています。そして前の仕事で２０年間、色んな農業の生産現場に行かせていただいて苦労と工夫を見せていただいたので、全国の市長の中では比較的農業に理解があるほうではないかなと思っています。これから農業をやっていただく方がいなくなるのではいけませんので、担い手の支援も進めていきたいと思いますので、またご協力をよろしくお願いいたします。

【男性】　えひめ中央農協です。私は新規就農の担い手を主に担当しているわけですが、私からの質問はＪＡが整備する営農の定着のための就農開始園地に対する助成について、現在の農協の取り組み状況なども説明しながらさせていただいたらと思いますのでスライドをお願いします。これはえひめ中央の柑橘の研修圃場です。新規就農者を対象に研修をできる園地をつくりたいということで、堀江町に１．４ヘクタールの研修の場所を平成２５年の４月につくりました。

【市長】　景色からいうとバイパスのトンネルの上あたりですか。

【男性】　バイパスの１つ目のトンネルの上ですので、また見に来ていただいたらと思います。新しい就農研修生を日々研修している状況です。

２７年度から新たに野菜の研修圃場を設置して、野菜をつくりたいという研修生を対象に野菜の圃場も今後やっていく予定になっております。現在の農作業支援と就農研修生の受け入れ状況ですれども、農作業支援専任と書いてありますが、農家の農作業支援等を３名の職員が現在やっております。新規就農研修生は農協が臨時職員ということで雇って、農家の後継者と新規の就農者３名を雇って、先ほどのスライドにあった堀江の研修園、それと農作業支援を通じて研修をしております。昨年の９月から青年就農給付金（準備型）を利用して研修生が現在３名来ているという状況です。松山東と書いているのが、伊台の方２名と伊予の方１名ですけれども、この３名の方は先ほどの研修園地、また農家研修を通して技術の習得をしています。今後の予定ですけれど、４月から新規就農研修センターが新しくできます。新たに研修生の受け入れを順次拡大をしていく予定となっております。今年度の予定は、短期研修（１年）コースは５名程度、中期研修（２年）は就農給付金準備型を利用して研修を受けられる方で３名の予定をしております。長期研修（３年）コースは臨時職員になるのですが、今は受け入れはしていません。２７年度の合計は研修生が１４名で、今後ずっと増えていき、２９年度は研修生２０名という目標を持って、現在のところ取り組んでいる状況です。次は耕作放棄地を利用したＪＡによる就農開始園地の整備ということで載せさせていただきました。ここは、現在国の「耕作放棄地再生整備事業」に対して松山市さんにも上乗せの助成をいただいて現在整備が進んでいるところで、大変お世話になっています。今年度中には完成予定となっております。現在、研修生で来ている方の就農予定園地の整備というかたちで約５０アールを予定しております。品目は紅まどんな・はれひめ・夏秋胡瓜で、整備に要した費用は研修生が制度資金を利用して返還しているわけですが、今後、研修生が増えていく中で新たに研修生の圃場を整備していかないといけないということになっております。そこで耕作放棄地以外のところで研修生の就農園地を探していくわけですが、そういうときに老木園、または改植する品種の更新をＪＡが行う場合、就農者の負担を軽減するために導入する苗木とかそれにかかる資材に対してのさらなる助成をお願いしたいと思っています。

【農林水産課長】　先ほどの松山市農協さんに引き続き、えひめ中央さんの取り組みを見させていただきました。本当に心強い限りです。では、具体的なご提案をいただいた苗木と施設に対してお答えさせていただきます。まず苗木に対する助成ですが、農業指導センターが柑橘や野菜の苗を栽培しています。ただ、品種数量に限りがありますので苗の供給は農林水産課へご相談ご協議いただけたらと思います。次に資材に対する助成ですが、国や県の事業の対象とならないものは、既存の市の有望品種の施設整備支援事業をできるだけご活用いただけたらと思います。２７年度からは農業特有の加入障壁、技術習得の困難さとか農地の確保の困難さとかをできるだけ取り除いて、新たな就農者、担い手を確保しようと松山市も取り組んでいきますので、こういう中で検証しご相談しながら、またよりよい担い手育成の方策を立てていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【市長】　キーワードになると思うんですが、来年度からなので４月１日からですけれども、先ほど課長が申し上げた「多様な担い手育成支援事業」というのを始めます。これで皆さん方と一緒に連携をして担い手育成に努めていけたらなと思います。これまでタウンミーティングを重ねさせていただいて、この写真を見るとまず感じるのがイノシシの住み家になるんじゃないかなと思うんですね。皆さんもご存知だと思いますが、愛媛大学農学部には武山絵美先生という有害鳥獣の対策の専門の先生がいらっしゃいます。私が安居島の方々の声を聞かせてもらおうということで、安居島に行く船の中でたまたま先生もそちらの方向に行く用がありご一緒しました。猿が里山に下りてきて農作物を食べる被害を防ぐというモンキードック事業をやり始めたのは、武山先生とその船の中で話したのがきっかけになっているんです。「長野県で１０年前ぐらいからやり始めいるモンキードック事業ですけれども、やってみますか、市長さん」、「ちょっとでも効果があるんだったら、やってみたいです」ということで始めています。いろいろ武山絵美先生から話を聞いていますので、これを見たらイノシシの住み家になるんじゃないかなと思ってしまうんですね。ですから耕作放棄地があると虫が発生してきれいに手入れをされている園地に虫が飛んでいってご迷惑をかけるということもあるでしょう。イノシシの住み家になるんじゃないか、猿が下りてきやすくなるんじゃないかとも思いますので、皆さんと連携しながら担い手の育成に努めていきたい、耕作放棄地も少なくしていきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

【女性】　松山市農協です。私からは松山市の農林水産物ブランドにもなっています松山長なすにつきまして市長のご意見をお聞かせ願えたらと思います。松山市の農林水産物ブランドになっております松山長なすですが、こちらは地域の特産品となっておりまして、最近でも農協内で新規の生産者の方が何名か入っております。この長なすですが夏場の野菜としてはハウスではなく、路地でつくる野菜の中では非常に所得が安定するという点もありまして、専業で農業をされている方にとっては非常に重要な品目で松山市農協でも力を入れて取り組んでおります。ただ、こちらの栽培は非常に技術が必要になってくるために、生産者によって収量とか品質に非常に差があるというところが現在の課題となっております。その対応策として自動灌水施肥装置というものがあるので、それの設置に対する支援等を松山市でお願いできないかと思って質問をさせていただいております。なすをつくる際ですが、夏場の暑いときにつくる野菜ということで、作業をされる農家さんにも非常に負担がかかるのですが、なす自体もつくり方によって全く生育とか収量が変わってきまして、最終的に収穫量にも大きく影響してきます。松山市農協内でも多い方ですと１反あたりの収量が１０トンを超える方もいますが、少ない方になると５トンを切って３トンですとか、同じ生産者の方でも非常に差が出てくるということで、できるだけ安定させるために水やりをする作業と、それと同時に肥料を非常に必要とする野菜ですので、その肥料も自動ですることによって生産者間の差を無くして、新しく専業的に農業を行っていこうという生産者の方にも安心して取り組んでいただけるようにできるのが、ソーラーパネルを活用した自動灌水施肥装置です。圃場内にソーラーパネルを設置しまして、畝にマルチを貼ってそこになすを植えるんですが、その畝に灌水用の点滴チューブを設置しまして、そこに水やりの水と肥料を順番に収穫栽培中に何度か行う追肥をする作業をこの灌水をする点滴チューブで一括にできる装置になっております。また、このソーラーパネルを利用することで、日照量で稼動が変わってきますので、非常に暑いときは電気もソーラーパネルがしてくれますのでしっかり灌水もできますし、曇っているときはそれほど水やりも必要ないということで、それもソーラーパネルが自動でやってくれる。特に松山市は夏場に水不足が心配されますので生産者の方々も不安になるのですが、この装置を使うことで必要なときに必要なだけ適量を灌水することができますので、農業に関しての水不足への点でも非常にいい方向に解消できるのではないかなと思います。今後、専業で農家を取り組まれる方の高齢化もありますし、できたらこういう装置を支援していただきたいなと思いましてご意見をお聞かせ願えたらと思います。お願いします。

【市長】　はい、わかりました。これは私から述べさせていただきたいと思いますが、おそらくできると思います。今まで松山市はこれまで３年間「地元野菜等産地活性化事業」というのをやってきましたので、やってきたことの検証はやらないといけないんですけども、ＪＡさんともお話をしながらやっていけないかどうか検討したいと思っています。実は今、ふるさと納税といって各地で盛んになってきて知られるようになってきていますが、ふるさと納税で額を納めていただいた方にお返しを渡すのですが、松山長なすはふるさと納税でのプレゼントでも非常に人気のあるものになっています。ＪＡ松山市さんが推進している野菜の中でも重要な位置付けであると聞いていますし松山らしいですよね。松山サンシャインプロジェクトといいまして、太陽光発電企業さんをできるだけ誘致しようとか太陽光発電を進めていこうと松山市はやっていますので、太陽光でやる、松山の水事情も考えていただいたものですので、すごく松山らしいと思いますのでできるんじゃないかなと思っています。前向きに捉えてＪＡさんとお話をしながら進めていきたいと思っています。

【男性】　えひめ中央農協の生産指導課です。私からは愛媛県オリジナル品種である紅まどんな・甘平といったものの推進についてお願いをしたらと思います。今現在の紅まどんなの生産面積ですが、えひめ中央農協管内で今現在６２ヘクタール紅まどんなが栽培されております。その内松山市が２７ヘクタールあるわけですが、それは今現在松山市からいただいております施設化の推進事業のおかげでこれだけの面積が増えたのかなと思っております。なおこれを平成３２年に目標５０ヘクタールまで松山市管内で増やしていきたいと思いますので、引き続きこの施設化推進事業の継続をお願いします。それと甘平の面積拡大も書いておりますが、今現在

えひめ中央管内で６７ヘクタールのそのほとんどが松山市ということで４６ヘクタールあるわけですが、これも将来的には１００ヘクタール、松山市管内で７０ヘクタールに増やそうという計画があります。ただし、甘平は夏場に雨が降らない中で乾ききったところに雨が降りますと、パチンと割れて生産量が安定しないという問題があります。そういったところで、甘平に対する点滴灌水とか灌水施設に助成をしていただけないかなということをお願いしたいと思います。それともう１つ、ここにありますのは中古の施設です。こういった遊んでいるハウスがかなりあるわけですが、これは耐用年数を過ぎているということで、以前に助成を受けて建てたハウスかもわかりませんが、こういった耐用年数を過ぎたハウスを有効利用するために、これを移設するための費用について助成事業はないかなということを松山市にお願いしたいわけですが、そのあたりのご回答をよろしくお願いいたします。

【市長】　はい、わかりました。中古ハウスは担当からお願いします。この前に紅まどんなの生産地に行ったときに、農家の方に「紅まどんなはどんなですか」と聞いたら「面白いです」と言われるんですよね。これは私も嬉しかったです。うちは祖母が９５歳で亡くなりましたけども亡くなる直前まで田んぼ・畑に出続けた祖母でしたが、一時期キウイをやりまして流行りました。最初はよかったんですけど価格が落ちてしまったことがありました。価格が落ちないよう大田市場に行かせていただくと本当に市場の方はシビアですね。品質にブレがあったら生産地の死活問題だなと思うんですけれども、本当に品質のことは細かく言われるなと思います。そういう中で、紅まどんなはどんなですかと聞いたら、面白いです。農業をされている方で本当に目を輝かせながら面白いですとおっしゃった、あれは我々にとっても嬉しいことでありました。これは一層進めていこうと思っていまして、３月議会がこの前に終わったところですが、４月から１年間の予算を決めるんですけれども増やしました。平成２６年度、紅まどんなとか甘平には灌水の整備、風や鳥を防ぐ防風・防鳥ネットの整備について、また紅まどんなにはほかにハウスの整備にも支援をしておりますけれども、生産者の皆さんからもこの事業に多くの要望をいただいておりますので、松山市としては平成２６年度の予算額は５，６２０万円だったんですけれども、平成２７年は施設整備として９，７０１万円の当初予算を計上して議会にも認められましたので、４，０８１万円の増額、前年に比べると７２パーセント増になります。有望品種に比べるとつくりやすい温州みかんとか伊予柑といった基幹品種も大事にしていきたいんですけど、いわゆる有望品種といわれるまつやま農林水産物ブランドに認定している

１２月の紅まどんな、１月のせとか、そしてゴールデンウィークのカラマンダリンはできる限りバックアップをしていきたいなと思っています。中古ハウスについては中田課長お願いします。

【農林水産課長】　今、市長が申しましたとおり、ハウス・点滴灌水、これらの施設整備の新設に関しては予算額を約７０パーセント増額と２７年度はさせていただきました。中古ハウスの移設に関してですが、皆様ご存知だと思うんですが中古ハウスについては、もともと建てたときに県とか市の補助が入って建っているハウスがほとんどだと思います。そのハウスに対してもう一度移設についての市の補助金を入れるのかということ、ハウスの維持管理も含めてですけど、中古ハウスに関しては今のところは助成対象としないという考え方でさせていただいております。それと今、市長がお話しました新設ハウスも含めての施設整備にどれぐらいの要望があるのかということとの兼ね合いの中で今後考えさせていただけたらと思います。

【市長】　できる限りやっていきたいと思います。こんな感じになっているんですよというのを聞いていただいたらと思うんですけれども、当初予算といい３月の議会で認めてもらうために１月とか２月ぐらいに各担当が来年はこういうのをやりたいですよと持ってくるんですよ。例えば農林水産課とか鳥獣対策担当が持ってくるんですけれども、現場の担当としては市民の皆さんからこういう意見をもらっているので、こういう事業をやりたいんですと持ってくるんですけれども、私とか副市長とか理財部といういわゆる大蔵省ですね、家でいうと懐を握っているお母さんです。各担当課がこういうことをやりたいと言ってくるんですけれども、「そこまでやってしまうと去年の予算に比べて倍ぐらいになってしまうから、そこまではやれないなあ」とか、「タウンミーティングをやらせていただいて市民の皆さんの要望が多いから、ここはあえて膨らませてやろうや」とか、「この事業はちょっと今年は我慢しよう」とか、そういうヒアリングというのをやるんですけれども、予算折衝ですね。理財部へ各担当課が持ってくるんですけれども、各担当課はやりたいんですよ。鳥獣対策としてはイノシシの被害とかサル・シカを避けるためにこういう事業をやりたいです。農林水産課としてはこういう事業をやりたいですと持ってくるんですけれども、それを全部やってしまったら予算がとても間に合わないなあみたいなことがあるのでヒアリングをするんですけど、先ほど７２パーセント増と申し上げたんですけれども、やっぱり我々としてはできるだけ汗を流している農業者の方が報われるようにしていきたいと思いますので、できる限りやっていきたいと思っています。中間どころまで来ましたので紅まどんなのトップセールスを見ていただいたらと思うのですが、私が市長に就任させていただいて、特に力を入れてやってきました。皆さんよく聞かれると思いますが、東京の大田市場はなぜ大田市場と言うのかというと東京の大田区にあるから大田市場です。日本一の取扱量を誇ります。東京の大田市場に行って、まつやま農林水産物ブランドのセールスをさせてもらっています。まつやま農林水産物ブランドは農家の方の所得向上のために認定しているものですけれども８種類あります。柑橘が３つ、「紅まどんな」「せとか」「カラマンダリン」。果物でいうと「伊台・五明こうげんぶどう」です。そして「松山長なす」「松山一寸そらまめ」、海のものでいうと「瀬戸内の銀鱗煮干し」「ぼっちゃん島あわび」の８種類です。今、私が大田市場にセールスに行っているのが紅まどんな・せとか・カラマンダリン。できれば松山長なすとか松山一寸そらまめも皆さんとお話をさせていただいて、できるのだったらやりたいなと思っていますが、これは私のスケジュールと皆さんとの相談次第と思っています。価格のこともあると思いますけれども、行くのはシーズンの最初に行きます。なぜシーズンの最初に行くのかというと、ちゃんと競り人さんたちに理解をしてもらう。大田市場の関係者の方に生産者の方の苦労と工夫を理解してもらったら、いい値段を付けてもらえるんです。いい値段をつけてもらったら、いい値段でそのシーズンを引っ張れる。逆に悪い値段が付いてしまったら悪い値段で引っ張られてしまうので、シーズンの最初に紅まどんなとはこういうものなんですよ、せとかはこういうものなんですよ、カラマンダリンはこういうものなんですよというのをさせていただいています。１２月の紅まどんなのセールスをさせていただいているのを、ちょっと見ていただいたらと思います。よろしくお願いします。

※『松山市動画チャンネル　平成２６年度まつやま農林水産物ブランド「紅まどんな」トップセールス』を視聴

【市長】　はい、というようなことでやっております。何でも行くことはできないので、まつやま農林水産物ブランドに認定している中で行っていない松山長なすとか一寸そらまめは皆さんとお話をしながらやることができればと思っているんですが、大田市場でやることも大事ですけれども、例えば生産者お一人お一人が大手百貨店さんに行って松山のものを扱ってくださいと言ってもそれは難しいと思います。今、松山市がつながりを持って大事にしているのが、どこのデパートさんでも扱ってもらうとありがたいんですが、三越伊勢丹グループさんが百貨店グループでは一番の売上を誇るんですね。松山三越もありますので三越伊勢丹グループさんへの売り込みを強めています。また、大田市場では３分時間をいただきますと言っていたんですが、今、私が１２回大田市場へ行かせていただきましたけれども、本当は大体２分しかくれないんです。２分が３分になるのは結構大きいんですけれども、１００人から１５０人ぐらいの方が並んでいましたかね。ほかの県の生産地の方もおいでるんですね。あるときは婦人団体の２０人ぐらいの方がものすごくよく聞いてくれまして、何であんなによく聞いてくれたのだろうかと思うと、静岡の三ヶ日の生産地の方々が来られていたんです。そういう生産地の方々やデパートのバイヤーさんも来られ、そういう方々の前でセールスをしております。朝の忙しい時間ですから、あまり長いことされたら困るので、でも松山市はもう１２回も来ているので市長は３分あげますからと、倍近くの時間をいただいてやっております。今、首都圏の大手百貨店さんとの連携による集中プロモーションは、私が就任した平成２２年度は１店舗だったんですが、今はおかげさまで３３店舗まで拡大することができました。当初は紅まどんなの販売は

１店舗で３２万円の実績だったのですが、この４年で１１店舗で５４０万円、集中プロモーションのときだけでこれだけ増えるようになりました。ブランド産品の新規取扱いは延べ１０４店舗に広がっております。これからも私の持ち味だと思っていますので、大田市場でセールスをすること、そして百貨店さんに行って「松山のものはいいですから扱ってくださいよ」というのは、熱意を持ってやらせていただこうと思っていますので、また皆さんと連携をしながらやりたいと思います。アニメを使って説明をしていましたけれども、実はあのアニメもお金を使ってやっているのではなくて松山市の職員で漫画を描くのが上手い職員がいますので、そういう職員に描いてもらう。写真を撮るのが上手い職員もいますので、写真をきれいに撮ってそれでやるという、できるだけお金をかけない方法で売上を増やすようにやっていますので、また皆さんもご協力いただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

【男性】　松山市農協です。私からは農業用の廃プラスチックの関係のことでお願いをしたいと思っております。今まで発表をされた方は生産に従事されておられる職員であろうかと思いますが、私は資材供給をさせていただいていますので、そちらのほうからお願いをしたらと思っています。産業廃棄物、農業の廃プラスチックの処分についてというスライドがあると思いますが、今までお話がありましたように、つくるためには中古ハウスであろうと新規ハウスであろうとビニールをかけないといけません。ビニールをかけると、どうしても数年のうちには廃棄ということになってこようかと思います。農業のビニールハウスはポリマルチや自然の畔シートをご存知だと思いますけど、農業用の肥料や農薬等の容器あたりが産業廃棄物になります。適正に処分をしなければ、犯罪行為というか１，０００万円以下の罰金、５年以下の懲役という法的なことにもなりますし、今までの流れの中では自然環境をいかに守っていくかというのも農業の１つの大きな目的であるかと思います。野積みとか不法投棄とか、野焼きとか、環境へ悪影響を与えるところが非常に多いので、それを回避しようと我々農協も農家と一丸となって回収に努めています。また、愛媛県とか各行政にもご支援をいただいているところで、農業用の廃プラスチックの処分状況ということで、松山市の関係者だけでございますけど、２００人前後毎年排出しています。毎年こういうのをやっているわけですが、やはりまとまって持ってこられるので波がありまして、多いとき少ないときあるんですが、２００名から２５０名前後を行ったり来たりして量も多かったり少なかったりするんですが、１２～１３トン前後の量が出ています。これは処分料金はだいたい３１円/㎏でして、処理費用は４０万円から５０万円前後が農家の負担になっているところでございます。農協もこの費用の４割程度は助成をさせていただいてございます。私のところには２市２町、東温市、松山市、久万高原町、松前町ということでテリトリーがあるわけですが、その中からもいくらかずつ、諸事情によって助成をいただいているところでございます。松山市内も先ほど来、みかんの根とかねぎ・トマトの根に必ずビニールとかそういうものが発生してございます。つくるのはいくらつくっていただいても構わないのですが、どう終いをするんだという、野積みはだめよ、投棄もだめよと自ら責任を持って処分をしようと農協も協力して支援もしています。ひとつ行政もご協力をお願いできたらと思って今日提案させていただいてございます。いい方向で話をいただいたらありがたく思ってございます。

【市長】　私からお答えをいたします。おそらくできると思います。実はご紹介したとおり松山市もハウス栽培のお勧めをしているので、最初だけは勧めるけど後は知らないのかということになりかねません。今後、貼り替え更新なども含めて農業用の廃プラスチックもますます増えると思います。松山市は両ＪＡさんが設置している、皆さんご存知の農業用廃プラスチック適正処理推進協議会、この処理する処理事業費に対して平成１２年度から１６年度までの５年間は総額でおよそ４００万円を補助していました。今、協議会の会費の補助はしているんですけども、処理する事業費に補助は平成１６年度を最後に支援していない状況となっておりました。当時の農業用の廃プラスチックは、農家の皆さんが自らが処理すべきものではあるんですけれども、農家が野焼きとかご自分の畑に野積みなどをして処理をしている状況であったので、環境保全やまた施設園芸の推進を図るために支出をしていました。５年間の取り組みの中で農業用の廃プラスチックが適正に処分されることが定着したので、補助金の交付を終えていたんですけども、当時と現在の状況が大きく変わっておりますので、今後処理費に関係をする補助について前向きに検討したいと思っております。また皆さんと協議をしながら詰めたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。これは松山市単独でやるとなかなか難しいところがあるので、両ＪＡさんもやっていただく、そこへ松山市も協調というかたちでお願いできればと思います。

【男性】　えひめ中央農協です。よろしくお願いします。私からは既存品種の維持に対する政策ということでお願いできたらと思います。スライドをよろしくお願いします。年明けから松山市さんには伊予柑の生誕６０周年記念という還暦祭で大変お世話になったことをこの場をお借りしてお礼申し上げます。既存品種の宮内伊予柑は全国の生産量で５０％を松山市が占めているということです。この品種を維持していきたいということで、維持するためには老木園を若い園地に変えていくと苗木が必要になってきます。苗木の導入に対して今まで色んな事業があるわけですが、同一品種から同一品種というのがなかなか今まで難しかったところがある。それと改植は先ほど作業支援の関係もありましたので、農協の内部でもそういった改植に対する作業支援も検討しているというところでありますが、とりあえずは苗木に対する助成を何とかならないかなということがまず１点あります。それと傾斜地の作業の軽減のための作業道の設置ということで、ある程度できているところもあるんですけれども、松山市でいいますと中島を含んだ島しょ部はなかなか遅れているところがあるのかなと思いますので、そういったところの作業道の設置。そして、２点目になりますけれどもキウイフルーツの関係。昨年はキウイのかいよう病で松山市にも大変ご尽力いただいたことをこの場でお礼いたします。そのキウイフルーツは全国で松山市は３％ですが、愛媛県が全国のトップ産地で愛媛県全体では約３００ヘクタールくらいありまして、その中で松山市は６２ヘクタールを超えております。松山市農協さんの９ヘクタールを足すともっとということになっていますが、先ほど言いましたかいよう病と立ち枯れ病というのがあります。そういった中でこの２～３年前からシマサルナシの台木が、一応耐病性の台木ということで、今、試験機関でも始まっているわけですが、我々としましても苗木業者を通じた中で種子を送って増殖してもらうわけなんですけれども、なかなか種で１万粒くらい撒いても千本も残らないという状況になっております。特に増殖しやすいのは挿し木の関係ということで、ここでお願いしたいのは指導農場を利用した中でのシマサルナシ台木、いわゆる耐病性台木の増殖のご協力を願えないかというところであります。私からはその２点ばかりご検討を願えたらと思います。

【農林水産課長】　まず伊予柑の老木更新についてですが、伊予柑が基幹品種として温州もそうですが、柑橘農家の経営を支えていることは認識しています。現在、品種更新、温州、伊予柑から変えている状態と合わせて老木更新という中で注力していくときにどう軸足を置いていくのかというのがあります。ご存知だとは思いますが愛媛県の事業で「果樹戦略品種供給力強化事業」があります。この事業は２３年度から２７年度までは確実に続きます。ですから、その事業をできるだけ活用していただいて、その後に協議させていただけたらと思っております。次に作業道の関係ですが、特に柑橘園地は施設整備というか作業道が必要と認識しています。事業化するにあたっては、別の課との協議も必要ですので、この場で即答させていただくというのは控えさせていただきたいと思います。農林水産課でもブランド品の推進に合わせて一部作業道の補助事業を３年間やっていましたので、その検証も合わせてという意味でまた後日改めてご回答させていただけたらと思います。それともう１点のキウイフルーツのシマサルナシの台木の話をお伺いいたしました。２６年度にPsa３系統が発生してからのＪＡさんとか農家さんのご苦労、行政も大変でしたけれども、台木育成は松山市の中で可能なのは農業指導センターです。先ほどもお話させていただきましたように農業指導センターでは、現在、野菜苗や柑橘苗の育成を周年でやっています。人的またはその場所の確保についてどこまでできるのかというところもありますので、また改めてＪＡさんと協議させていただいて、どういうかたちでどこまで協力できるかをお話させていただけたらと思いますのでご理解いただきたいと思います。

【女性】　ＪＡ松山市です。農業塾とあぐりスクールに対する支援のスライドをお願いします。ＪＡ松山市では地域の大人と子どもが土にふれあいながら野菜を育てる体験塾を開いております。大人対象のほうは農業塾といいます。農業塾では定年退職者や就農希望者を対象に土づくりや病害虫防除などの基本技術の習得や高品質でおいしい農産物をつくるためのコツを教えており、最終的には農業者の育成を最大の目標としています。ＪＡ松山市の特産である松山長なすや白ねぎ、レタスなども栽培しています。農業塾は今年で５年目に入りますが、毎年約１５人を受け入れており４年間で延べ６０人が卒業しました。その内７人の卒業生が就農し４人がＪＡ出荷に取り組み、３人が直売場の出荷を始めております。松山市内の農地で開催しており、年間を通じて先ほどの特産品のほか、参加者が希望するものを加え多くの種類の野菜の栽培に取り組んでおります。この事業は今後も継続していきたいと考えておりますが、借地料のほか肥料や苗代などの費用が負担となっております。経費の一部を助成していただけませんでしょうかというお願いです。続きまして地域の子どもたちの食育についてご説明いたします。ＪＡグループでは食育という言葉ではなく食材をつくりだす農業のプロセスを含んだ食農教育という言葉を使います。ＪＡ松山市ではあぐりスクールを開講して今年で６年目となります。小学校３年生から６年生の約３０人に対し、年間を通じての食農教育、種をまき野菜の世話をして調理して口に入れるまでのカリキュラムを提供しています。目的は子どもたちに食と農の大切さを伝えることなどですが、ほかにも大きな目的があります。入所１年目から３年目の若い職員に農業体験をさせることと、また子どもたちの先生役としてイベントに関わることで、人としてもＪＡ職員としても成長させたいという目的があります。あぐりスクールは子どもにとっても職員にとってもいい経験になっていると自負しておりますが、会を重ねるごとに若手職員の悩みは増えています。それは子どもとどのように接すればよいかということです。どのように叱ればいいか、どうすれば静かに話を聞いてくれるか、元気が良すぎる子のメリハリをつけて指導させるにはどうすればいいかなど悩みはつきません。そこであぐりスクールのスタッフである私どもの職員に子どもの指導に関する知識やテクニックをレクチャーしていただける方を紹介していただきたいと思います。小学校の元校長先生など教育のプロをご紹介していただける窓口や疑問にお答えいただける方を紹介してくれれば大変ありがたく思います。よろしくお願いいたします。

【市長】　私からお答えさせていただきます。１年目から３年目の職員さんがやられているのは、いろいろなことを考えられているなとこちらも敬意を表したいと思います。紹介をしてくださいということですが、できます。今日、ちょうど松山市に来てくれていたのですが、松山市では立岩・中島・坂本・興居島の４地区で地元の委員会主体で農業や漁業、文化体験するという事業をやっておりまして、つくったものを販売してその売上金を東日本大震災の義援金として今日ちょうど持ってきてくれたところです。そういうのを毎年やっていますのでノウハウがあります。ですので、教員ＯＢが経験を活かした事業を行っていますので、担当は教育委員会の地域学習振興課というところが担当になりますので、早速、我々のタウンミーティング課から地域学習振興課へＪＡさんから連絡がかかると言っておきますので、すぐに行けるようにしておきますので遠慮なく相談をしていただいたらと思います。また、先ほど申し上げた農業塾とあぐりスクールの支援のことですけど、４月１日から来年度からやります「多様な担い手育成支援事業」を実施しますので、それと組みこんでいけるんじゃないかなと思います。先ほど課長から４つハードルがあると申し上げたのですが、もう１回おさらいをすると農業参入の壁は４つ。技術習得の壁、農地を確保する難しさ、初期費用の高さ、そして未収益期間が存在すること。収益が入ってこない時間があります。その４点を整理させていただいて、これまでの事業では対応が難しい技術の習得の支援と、初期費用を低くすることに重点を置いて松山市として新年度から新しい独自の支援を行うことにしています。このＪＡ松山さんの農業塾の取り組みはまさにこの事業の趣旨に合致をしますので、支援の対象となる生産者組織は今後公募することになるんですけども、ＪＡさんにはぜひ支援事業への応募を検討していただくとともに、支援事業が実りあるものになるように制度の詳細の設計にご協力をいただきたいと思います。２つのところで連携できるかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

【男性】　えひめ中央農協です。私からは農業者の高齢化に対する施策について質問させていただきます。スライドをお願いします。現在、えひめ中央管内は多くの急傾斜地、また傾斜地の園地を抱えております。そのような園地は水はけもよくて、非常に高品質な温州みかん、あるいは宮内伊予柑が生産されています。しかしながらお年を召した方は傾斜地の園地の農作業で、特に施肥・収穫・運搬作業あたりが非常につらくなっているということがあります。そういった中で解決策としては先ほどの質問と若干かぶるかもしれませんが、歩行型の作業道掘削機により簡単な幅１メートル前後の小規模な一輪車が通るような１メートル程度の作業道を設置して、作業者の向上を図っていくことが大切だと考えております。また、生産者の高齢化の中、重労働が改善されたら優良園地は維持されていくものと考えております。そこで小規模の園内で簡易的な作業道の設置のための作業道掘削機の費用、またそのオペレーターの人件費の助成と松山市さんのご協力、また今後ＪＡと一緒になって考えていただきたいと思いまして質問をさせていただきました。以上、検討のほどよろしくお願いします。

【農林水産課長】　高齢化に伴って特に急傾斜地の柑橘園地で作業がしにくいというのはよくわかります。これは機械を使ってＪＡさんが作業道を設置されるということですか。わかりました。それについては一度持ち帰らせていただきたいのですが、またＪＡさんで計画をより具体的に練っていただいて、その中でどういうことができるのかという考え方を固めていただけたらと思っています。固まった段階でまた改めてご協議させていただくということでご理解をお願いいたします。

【市長】　これは本当に頭が痛いですね。中島から帰るときなんですけど、船に乗るときに島の人から「市長さん、この農地やみかんの園地がこれからいくら残っていくのですかね」という話を聞いて、本当に頭が痛いなと思うんですけれども、高齢化しているので平坦なほうが作業はしやすいですよ。でも、もともと優良な園地だからやっていらっしゃるのだから、そういう園地が高齢化の中でどうしていくかは本当に悩ましい問題だなと思っています。

【男性】　えひめ中央農協です。農業基盤強化のための市とＪＡの連携強化について提案させていただけたらと思います。スライドをお願いします。これは先ほど話も出てきたんですけれども、今年の１月の１４日に「いいよかん」というのをもじった宮内伊予柑の還暦イベントの写真ですけれども、このイベントは本来ならえひめ中央農協が主催でやりたかったんですけど、宮内伊予柑６０周年ということで、松山市さんとうちの平田支部が主催で、潮見小学校の小学生が摘んだ宮内伊予柑を道後温泉の椿の湯の前で配って伊予柑風呂、温泉風呂にしてもらおうというイベントでございました。非常に優れたアイデアであったと思います。農協の我々も手伝ってはいるんですけれども、その後にテレビとか新聞報道で、うちの宮内伊予柑還暦祭のイベントにもつながりまして、大いに宮内伊予柑の消費拡大のアピールにつながったと実感しております。今後ともこういった地域住民や観光客を相手にした農産物のアピールとか、農業に対する理解を進めていけるようなイベントを一緒にしていただきたいとお願いをしたいと思います。もちろんイベントだけではなく、最初に取り組みを紹介した新規就農生の受け入れの件とか、耕作放棄地対策とか課題は少なくありませんので、こういった課題を解決するためにも定期的な松山市とＪＡとの間の担当者会議の開催とか、ＪＡの現場で開催されております会議等へのご参加を通じて意見交換を進めていって、一緒になって営農振興とか販売促進を進めていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

【市長】　これ、ちょっと私の記憶が間違っていたら申しわけないのですが、実はこういうふうに進んでいったんですというのをご披露させていただいたらと思います。東京の大田市場に行かせていただくときに、私どもだけでなくＪＡさんも一緒に行っていただきます。宮内伊予柑が今年６０年だというのを聞きまして、ちょっと共通点があったんですね。去年、道後温泉本館の建物が１２０周年になりました。普通１２０年というと、

１００年と１５０年の間かと思われるんですけど、そこはひと工夫で人間６０年を迎える人を還暦といいますが、人間１２０歳まで生きる人はなかなかいないので大還暦ということで大変祝うそうです。じゃあ、道後温泉本館も１００年と１５０年の間じゃなくて１２０年の大還暦だということでお祝いをさせていただきました。道後オンセナートとかやりまして

１０年間で１番の道後温泉のホテル・旅館の宿泊数を記録することができたんですが、宮内伊予柑が６０年だと聞いて「還暦じゃないですか、めでたいじゃないですか」とお話をしていると、「伊予柑は今の紅まどんな・せとかに比べると比較的つくりやすい。野志さん、こんな第一線級をずっと持続している品種はなかなかないんですよ」と教えていただいて、これはすごいことだと。宮内伊予柑が発見されたことも聞かせていただいたので、これは知っていただきたいと思いました。伊予柑、いいよかんで本当に縁起もいいですからもっと地元の方に知っていただきたい。こういうふうにして宮内伊予柑は生まれて、一線級でずっと戦い続けている品種ですよというのを知ってほしくて何かイベントやりましょうよと秘書課に言った。できれば伊予柑風呂できないかなあということで言い出したんですけども、じゃあどこの伊予柑を使う、消毒するのは知っていますから消毒したのをそのままお風呂に入れたのではいけないので、じゃあどうするという話ですとか、じゃあどこのお風呂を使わせていただくのか、民間のお風呂を利用させていただいて伊予柑風呂とするのか、そういうときに私どもの松山市椿の湯が手を挙げてくれて、うちを使ってもらって構いませんよと言ってくれたので、じゃあ椿の湯でやろう。できたら椿の湯に伊予柑を浮かべて入浴している方が「ああ、ええ香りやね」というところをやりたかったんですけども、日中になります。どうしても子どもたちに知ってほしかったので、子どもたちに出ていただこう。これは松山市の教育委員会等の案件になるんですけれども、嬉しかったのは担当が「１月１４日にやりましょう。１時１４分にやりましょう」と言ってくれたので、より注目度が上がって当日はテレビ局は４局と新聞社５社が来てくれて、だいぶ伊予柑のことをいろいろ広めることができました。ですので、私が知ってほしいなと思って、それを皆さんが受け止めていただいてよく協力していただけたんじゃないかなと改めてご協力いただいた方に感謝を申し上げたいと思います。皆さんと一緒にいい取り組みができましたよというので松山市内の全ての家庭に配布される広報まつやまに取り上げさせていただきました。１面です。今日連携という話をさせていただきましたが、我々がＪＡさんと連携させていただくことで、重ねて申し上げますが、１＋１が２じゃなくて３になり４になり５になる取り組みができます。広報で上手くやっている仙台市役所とか神戸市役所の話を聞かせていただいたんですが、これ上手いなと思ったんですが、松山市が記者会見するだけだったらちょっと当たり前で面白くないんですよ。松山市とＪＡさんが並びで記者会見をすると、またこれも１＋１が３になり４になり５になる取り組みができますので、ＪＡさんと色んな取り組みを連携しながら共同主催をする。共同で記者会見をする。例えば、今度３月３１日には松山市と愛媛大学が共同の取り組みをするので、松山市と愛大が記者会見をするんですけれども、こういうふうに連携をすることによってもっと可能性を高めていくことができると思いますので、さまざま連携をさせていただいて取り組ませていただいたらなと思っています。時に私も熱い男ですから思いが先走ってしまって皆さんにご迷惑をかけることがあるかも知れませんけれども、皆さんはまさに豊かな経験と豊かな知識をお持ちのＪＡの皆様方ですので、「市長、これはこういうふうにやったほうがよりいいと思うよ」と連携させていただいたら、本当に市民の皆さんや生産者の皆さんに喜んでいただける取り組みができると思いますので、お力添えのほどよろしくお願いします。

【男性】　松山市農協です。イチゴの栽培者に対する栽培ハウス等の施設の支援をお願いしたいのですが、皆さん補助事業等をお願いしているので、僕は別のほうで支援をお願いしていきたいと思います。今シーズン、イチゴの「紅い雫」が報道等で発表されて育成品種ということでいろいろと各方面から問い合わせ等あると思うんですが、松山市として今後「紅い雫」を推進していくのかどうかを聞きたいということと、今、全農を通して出荷先として県内市場と大阪・関西の市場がメインとなっているんですが、愛媛県が推進しているのは関東の大田市場のほうにものを送りたいと言っているのですが、そこが現場と大きなギャップがあるんではないのかなと思っている次第でございます。そこで、先ほどみかん等は大田市場で頑張って宣伝等していただいているんですが、関西等でＪＡの実情を踏まえた宣伝等もお願いできないのかなというところをご質問したいと思います。

【農林水産課長】　「紅い雫」は、今、県下で栽培試験中ということでよろしいんですよね。

【男性】　もう、実際に出荷もされている方がいるということです。

【農林水産課長】　これからも増えていく状況にあるという理解でよろしいんですね。まず栽培試験中、これから増えていく、現段階で実際にそれをご覧になられた方、栽培されている方たちのお話を伺いながら、松山市としては今後「紅い雫」に対応して取り組んでいくということでご理解いただきたいと思います。それともう１点の販売先のお話ですが、市としてどこまで関与するかというのはありますが、今のお話を県を交えて市も入ってということは可能です。そういうところでまた連携しながら進めさせていただけたらと思います。

【司会】それでは時間がまいりましたので、最後に本日のまとめを市長にお願いします。

【市長】　今日は皆さん本当に年度末のお忙しいところご出席をいただきましてありがとうございました。ひょっとしたら時間がなくて本当はもうちょっと言いたかったんだけど言えなかったなという方がいらっしゃいましたら、松山市は市長への直接のメール制度を設けております。「わがまちメール」といいますけれども、松山市のホームページを見ていただいたら、市長への「わがまちメール」というコーナーがあります。これは直接市長のところへ意見が届くことになりますので、遠慮なく言っていただいたらと思います。今日、重ねて申し上げますけどもやっぱり皆さんとの連携が大事だなと。農協さんは農協さんで農家の方に良かれという策をいろいろ展開されると思います。松山市も同じで経緯を深くは知らないですけども、農林水産業は第１次産業じゃないですか。第２次産業じゃなくて第３次産業じゃなくて、やっぱり第１次になっているんだからそれなりの意味があると思うんですよ。農林水産業は口に入っていくものですから、安全なものをつくっていただくという観点で、食というのはものすごく大事なものですから、やっぱり第１次産業なんだろうなと思って、農業は特に大事にしたいなと思っています。県の話が出ましたけれども、愛媛県と松山市はしっかりと連携して物事を進めます。県がやるんだったら松山市は知らないとか、そういうことになったら県民・市民の皆さんの不幸せにつながると思います。やっぱりさまざま連携して取り組めることが県民・市民の皆さんの幸せだと思いますので、「もう農協さんがしているんだったら、松山市は知らないです」とか、そういうことでは県民・市民の幸せにつながっていかないと思いますので、やっぱり反目するんじゃなくて連携をして１＋１が３になり４になり５になり、足し算じゃなくて掛け算の関係になれればいいんじゃないかなと思いますので、これからもさまざま本音の話し合いの場を設けたり、先ほど紅まどんなのときに話をしましたけれども、「紅まどんなはどんなですか」、「面白いね」と言ってもらえるような、そういう農業者の方を紅まどんなだけでなくて、せとかだけじゃなくてカラマンダリンだけじゃなくて広げていきたいと思っていますので、またよろしくお願いいたします。今日は本当に年度末でお忙しいところ皆様方にはお集まりをいただきましてありがとうございます。一旦持ち帰らせていただきますご意見は、また１カ月を目途にお返しをさせていただいたらと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。これからも皆さんと意見交換できる関係であり続けたい。共に幸せを実感していただけることをやっていきたいと思いますので、これからもよろしくお願いいたします。今日は本当にありがとうございました。

― 了 ―